

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和7年第Ⅲ四半期（7～9月）

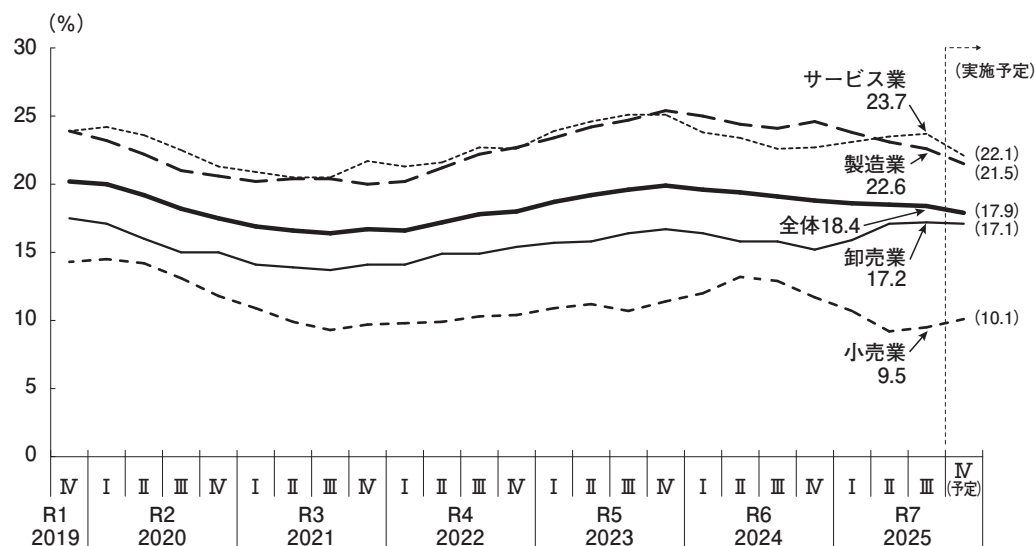
設備投資：ほぼ横ばいで推移 資金繰り：やや悪化
採算状況：やや悪化 雇用人員：ほぼ横ばいで推移

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均でみると、当期（令和7年7～9月）に設備投資を「実施した」割合は全体では18.4%となり、前期（令和7年4～6月）の18.5%からほぼ横ばいで推移した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は製造業22.6%（前期23.1%）がやや低下した。一方、小売業9.5%（同9.2%）とサービス業23.7%（同23.5%）はともにわずかに上昇した。

図表1 設備投資の実施割合の推移 —後方4四半期移動平均—



注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

来期（令和7年10～12月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では17.9%となり、やや低下する見通しとなった。

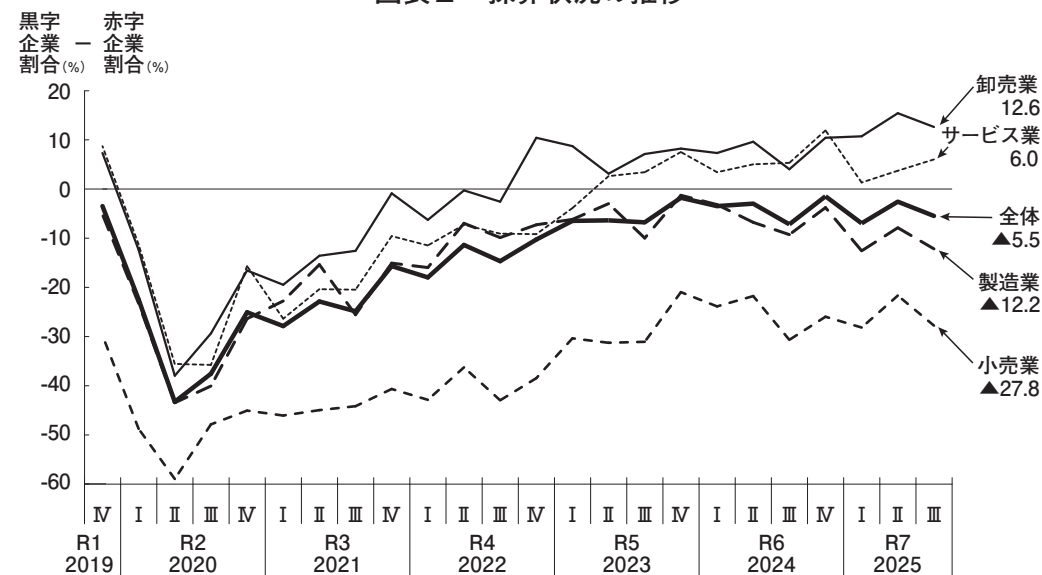
業種別にみると、設備投資の「実施予定」割合は当期と比べてサービス業22.1%と製造業21.5%はともに大幅な低下が見込まれる。一方、小売業10.1%はやや上昇する見通しとなった。

■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合でみると、全体では▲5.5（前期▲2.6）となり、2.9ポイント減少しやや悪化した。

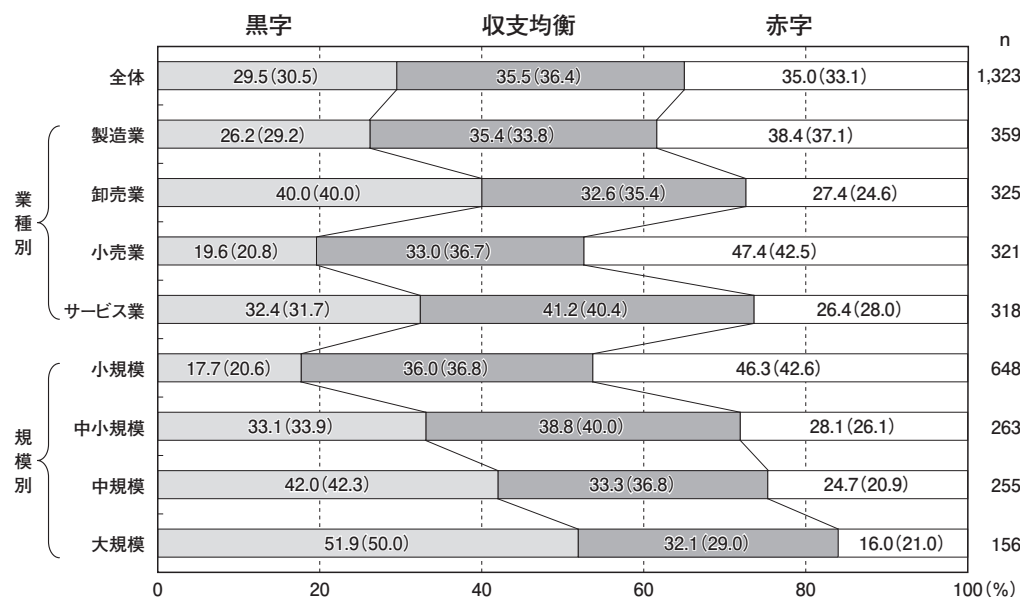
業種別にみると、小売業▲27.8（同▲21.7）は6.1ポイント減少し大幅に悪化、製造業▲12.2（同▲7.9）は4.3ポイント減少し悪化、卸売業12.6（同15.4）は2.8ポイント減少しやや悪化した。一方、サービス業6.0（同3.7）は2.3ポイント増加しやや改善した。

図表2 採算状況の推移



規模別にみると、規模が大きくなるほど「黒字」が高くなり、大規模は 51.9%（同 50.0%）を占めた。

図表3 採算状況（業種別・規模別）



注）規模別は規模不明を除く。（ ）内は前期（令和7年4～6月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

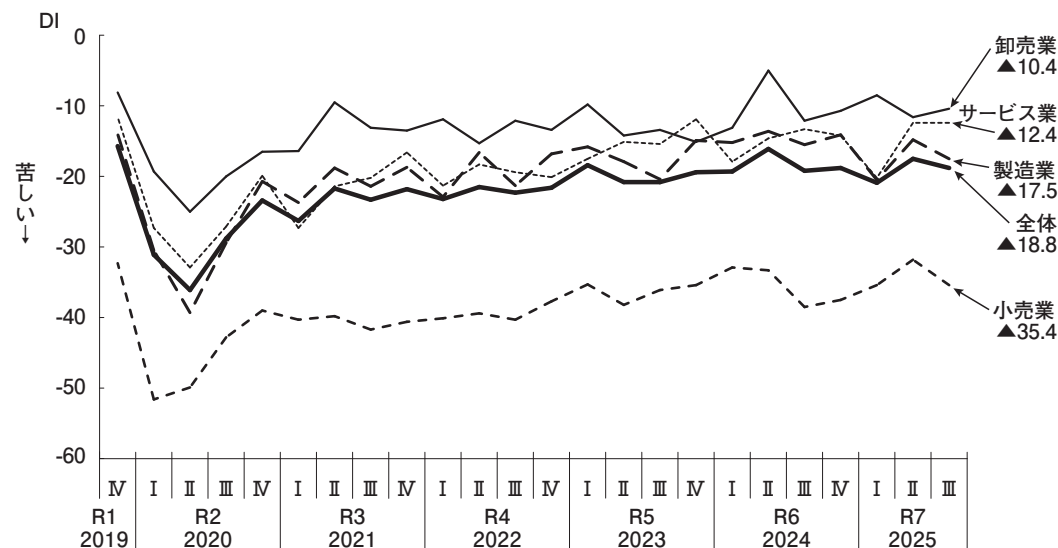
■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）でみると、全体では▲18.8（前期▲17.5）となり、1.3ポイント減少しやや悪化した。

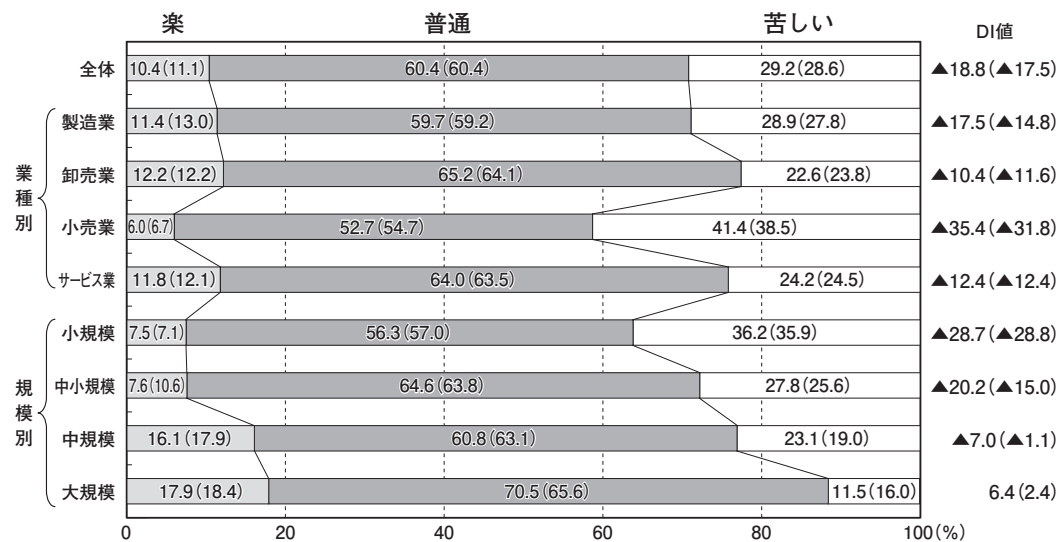
業種別にDI値をみると、小売業▲35.4（同▲31.8）は 3.6ポイント減少し悪化、製造業▲17.5（同▲14.8）は 2.7ポイント減少しやや悪化した。一方、卸売業▲10.4（同▲11.6）は 1.2ポイント増加しやや改善した。

規模別にDI値をみると、中規模▲7.0（同▲1.1）は 5.9ポイント減少、中小規模▲20.2（同▲15.0）は 5.2ポイント減少とともに大幅に悪化した。一方、大規模 6.4（同2.4）は 4.0ポイント増加し改善した。

図表4 資金繰りDIの推移



図表5 資金繰り状況（業種別・規模別）

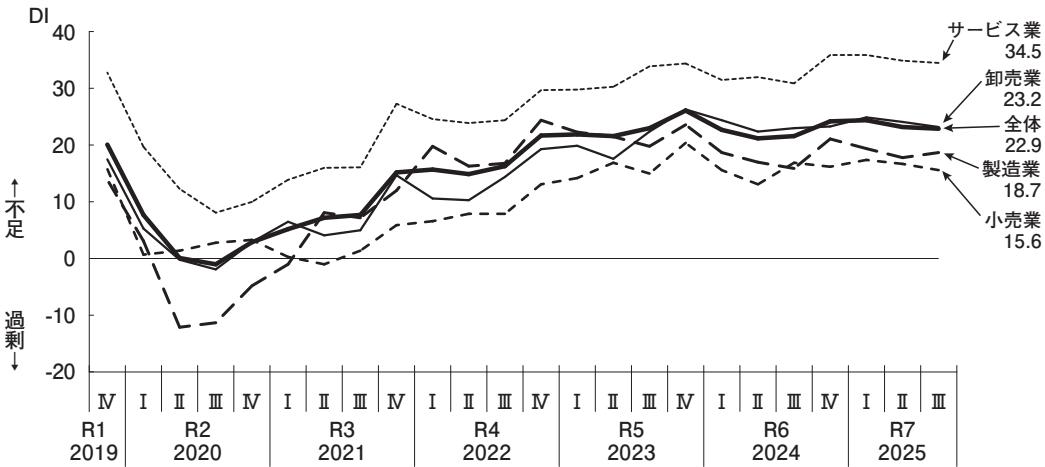


注）規模別は規模不明を除く。（ ）内は前期（令和7年4～6月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）でみると、全体では 22.9（前期 23.2）とほぼ横ばいで推移した。

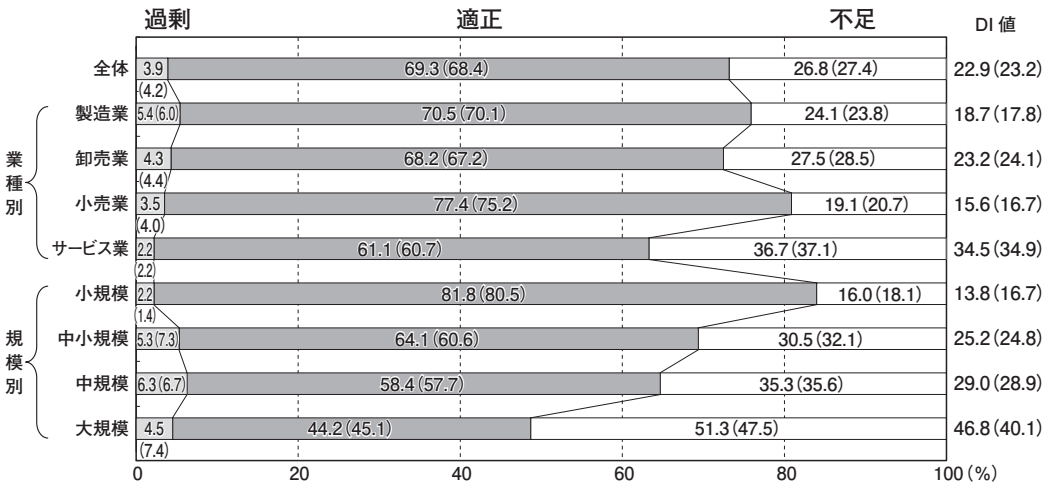
図表6 雇用人員DIの推移



業種別にDI値をみると、小売業 15.6（同16.7）は 1.1ポイント減少、卸売業 23.2（同 24.1）は 0.9ポイント減少しともにわずかに低下した。一方、製造業 18.7（同17.8）は 0.9ポイント増加しわずかに上昇した。

規模別にDI値をみると、規模が大きくなるほどDI値が高くなり、大規模は 46.8（同 40.1）となった。

図表7 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注）規模別は規模不明を除く。（ ）内は前期（令和7年4～6月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。